

高尾山創造の森 古墳を巡るハイキングマップ



身近に地域の自然や歴史にふれあえる場として未来に残そうと、土地所有者の方々と、大阪府と柏原市が協力して整備した面積約26haの森です。

森には多くの古墳が残され、遠い昔から人々と深い関わりがあったことがうかがえます。

四季折々の森の恵みに接し、いにしえへの思いをめぐらし、緑豊かな未来を創造するシンボルとして、皆さんに大切に育てていただきたいと思えます。



南パノラマ展望台の春と秋の風景



第17号支群1号墳



第17号支群2号墳



尾根沿いに連なる第16号支群の古墳



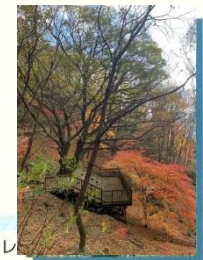
第11号支群1号墳



第11号支群の古墳も見られるケヤキ林



水仙郷



想いの森の紅葉 デッキと大きなエノキ

高尾山創造の森のお問い合わせ：柏原市産業振興課 〒582-8555 柏原市安堂町1-55
 ☎ 072-972-1554 Mail : sangyo@city.kashiwara.osaka.jp



高尾山創造の森 ホームページ

至近鉄かたしも駅

高野街道



堅下小学校

高野神社

めでのこめでひめ
 鐺比古鐺比売
 神社

花の咲く木がいろいろ
 植えられています
 サクラ、ヤマボウシ、
 ネムノキなど

ニセアカシアは
 初夏になると
 白い花が
 きれいです

木のデッキ
 大きなエノキの
 木陰で
 ちょっと一息

育ってきた
 ヒノキたち

第16号支群の古墳群が
 尾根上に連続

第17号支群の古墳群が
 尾根上に連続

古墳観察街道
 見はらし広場

古墳が
 ぼっかりと
 口をあけている

ここからは
 見晴らしがいい

秋には
 どんぐり
 こころ

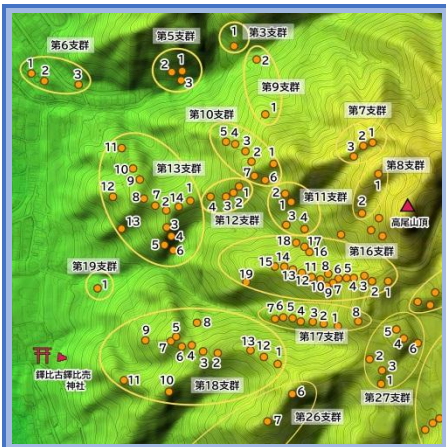
高尾山頂
 大きな岩

木の実もいっぱい
 小鳥にお気に入りの
 森です

まだ若いヒノキたち
 大きくなったら
 私たちの家の
 柱になるかも

至
 近鉄
 ほうせんじ駅

高尾山創造の森内で見学できる古墳



「なかよしの道」に沿って、平野・大泉支群第11支群の古墳を見ることができます。古墳はすべて円墳で、1・2号墳はくずれた横穴式石室が露出しています。やや登ったところにあるのが4号墳です。ほとんどの古墳には木棺が納められていますが、4号墳は全長6.2mとやや規模の大きい横穴式石室をもち、組合せ式の石棺を納めていました。どれも6世紀後半ごろの古墳です。

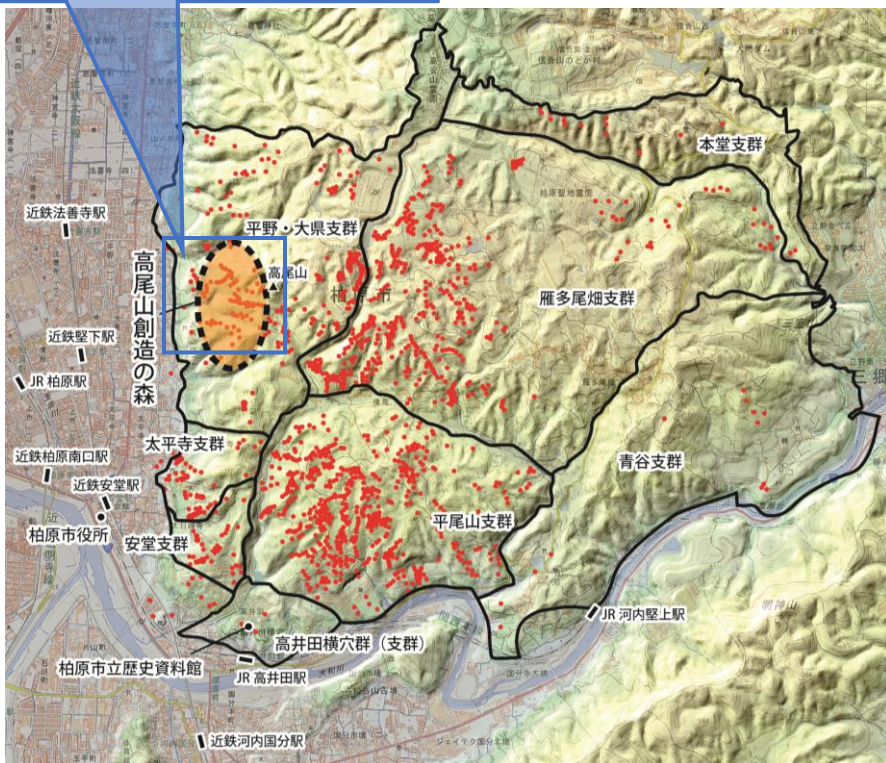


第11号支群1号墳

「いにしへの道」の上方で平野・大泉支群第17支群の1・2号墳を見ることができます。どちらも横穴式石室をもつ円墳で、1号墳には2つの木棺が並んで納められていたようです。1号墳から銀製のかんざしと銀製の耳飾、2号墳からも金銅製のかんざしと銀製の耳飾が出土しています。かんざしは、渡来系の人々に特徴的なもので、1・2号墳に葬られた人が渡来系の人だった可能性が高いと考えられます。1号墳が6世紀中ごろ、2号墳が6世紀後半の古墳です。



第17号支群1号墳(上)・2号墳(下)



▲ 平尾山古墳群

古墳群は大きく8つの支群に分けられています。各支群は地形や古墳の集中度から、第1支群、第2支群…とさらに細分され、その支群ごとに1号墳、2号墳…という名称が与えられています。

平尾山古墳群-全国最大規模の古墳群- 柏原市東部の東山一帯には、総数2000基ともいわれる平尾山古墳群が広がっています。古墳群の始まりは5世紀代で、6世紀後半から7世紀前半にかけて数多くの古墳が造られました。広大な古墳群は、大きな谷地形をもとに8つの支群に区別され、平野・大泉支群に高尾山創造の森はあります。

ほとんどの古墳は、直径10mほどの円墳で、石を積み上げて造られた横穴式石室に遺体が埋葬されています。これまでの発掘調査で、石室内から須恵器や土師器といった土器のほか、耳飾りやかんざしなどの副葬品が見つかっていました。なかでもかんざしは、主に渡来人が身に付けていたものとされ、平尾山古墳群に埋葬された人々のなかに、中国大陸や朝鮮半島から来た渡来人が含まれていたと考えられます。

平野・大泉支群各古墳から見つかった副葬品 ▶
左端：銀製指輪、中央：かんざし、右上：刀子、手前：耳飾り【柏原市立歴史資料館所蔵】



多鈕細文鏡-謎多き銅鏡- 1925(大正14)年、高尾山山頂付近の松林の開墾中に、特異な文様をもつ銅鏡が見つかりました。鏡の背面には紐を通す鈕(ちゅう)が2つあり、また非常に細かな幾何学文様があることから「多鈕細文鏡(たちゅうさいもんきょう)」と呼ばれている銅鏡です。同様の鏡が朝鮮半島から中国東北地方で見つかっていて、日本にはおよそ2000年前の弥生時代に伝わったと考えられています。全国で10数面しかなく、そのうち高尾山で見つかった鏡は、直径21.7cmの最大クラスで、かつ最も繊細な文様をもつ多鈕細文鏡です。

当時としては、かなり貴重品だったはずの銅鏡を、誰が、何の目的で山中に埋めたのでしょうか。その理由は謎のままですが、高尾山に対する何らかの信仰が、弥生時代にもあったのかもしれない。



▲ 多鈕細文鏡

【東京国立博物館所蔵】

柏原市立歴史資料館 入館無料 9:30~17:00(入館は16:30まで、月曜休館)
〒582-0015 柏原市高井田1598-1 ☎072-976-3430 Mail: rekishi@city.kashiwara.lg.jp



歴史資料館
ホームページ